夢洲で「いのち」を問い直す

清風新聞

万博特別号

第1部 夢洲編

OSAKA-KANSAI JAPAN EXPO2025

発行所
清風中学校
NIE研究会
〒543-0031 大阪府大阪市
天王寺区石ケ辻町１２-１６

編集長　野田晃司
徐（じょう）　太介（たいすけ）
上橋　遥翔（はると）
永田大智
編集助言　堀　祐樹

２０２５年大阪万博

誘致競争は最終局面へ

日本政府と大阪府は、２０２５年万国国際博覧会の誘致に取り組んでいる。誘致場所は大阪市此花区夢洲（ゆめしま）、テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」、２０２５年万博の開催コンセプトは「未来社会の実験場」。開催の是非は今年11月に決定されるため、大阪万博誘致活動は活発化している。

（野田晃司）

◆　◆　◆

国連は持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）を掲げている。健康・医療、農業・食料、環境・気候変動、エネルギー、安全・防災、人やジェンダーの平等など、幅広い諸問題の解決を２０３０年までに目指すべき世界共通の目標と定義。２０２５年万博では、これら「健康」に関する諸問題の解決策を世界に示す。大阪・関西をはじめ、わが国が誇る技術力を結集して取り組むことにより、世界市場へ売り込む。中小企業の持つ隠れた技術力の発掘も期待できるため、経済効果は計り知れない。

▲万博誘致が計画されている此花区・夢洲

万博は非常に開催意義が高いといえる。

２０２５年大阪万博の誘致活動は、大阪府が「２０２５日本万国博覧会」基本構想案を取りまとめたことで本格化した。２０１７年６月の第１６１回ＢＩＥ総会の日本のプレゼンテーションで安倍晋三首相がＰＲ動画で万博誘致の支持を表明し、国をあげて万博誘致に取り組んでいると高い評価を受けた。

有力候補のパリが辞退したこともあり日本は優勢な状況となった。２０１８年６月には、万博誘致に向けてＢＩＥ総会で日本のプレゼンターとしてノーベル生理学・医学賞を受賞された京都大学ｉＰＳ細胞研究所所長山中伸弥教授が自ら１９７０年の大阪万博についての思い出を英語で語り、話題をさらった。

過去に日本では、５回万博が開催されている。初開催となる１９７０年の日本万国博覧会は大阪・千里丘陵で開催され、現在その跡地は万博記念公園となっている。１９７０年大阪万博では、同万博の象徴である「太陽の塔」をはじめ、数多くの企業や国がパビリオンを設けた。

日本と同じく２０２５年万博の誘致を目指しているのが、ロシア中部の工業化が急速に進んでいるエカテリンブルクと、カスピ海沿岸のアゼルバイジャンで世界最大級の海底油田を持つバクーだ。両都市も日本に予断を許さない相手だ。エカテリンブルクは、２０１８年に行われたサッカーワールドカップの誘致に成功するなど、近年急速に国際的な地位を向上させている。さらに、バクーはソ連時代からの石油生産で発展を遂げ、ウラル地域の中心地だ。

エカテリンブルクのテーマは「世界変革：将来世代のためのイノベーションとより良い生活」。バクーのテーマは、「人的資本の発展、より良い未来の構築」。

両国には万博の開催経験はないが、日本陣営は具体的な計画の把握ができておらず、情報収集を急いでいる。日本陣営は走力を挙げて、大阪・関西への万博誘致へ取り組んでいる。

◆会場に5つ設けられる予定のイノベーションの空間「空」

清風新聞
万博特別号は
第2部 EXPO70編
に続きます

２０２５年大阪万博の構想

◆開催期間
２０２５年５月３日～
１１月３日（計１８５日）
◆開催地：大阪市此花区夢洲
◆テーマ
いのち輝く未来社会のデザイン
◆コンセプト
未来社会の実験場
◆経済波及効果：約６兆円

▲万博開催予定地の夢洲

◆ＢＩＥ　博覧会国際事務局（Ｂｕｒｅａｕ Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌｅｓ Ｅｘｐｏｓｉｔｉｏｎｓ）の略称。本部はパリ。博覧会主催国の選出、博覧会開催の監督を行う機関。国際博覧会条約（１９２８年署名）に基づき設置された。ＢＩＥ総会において、１７０の条約加盟国の投票で万博開催国を決定する。

部説

夢洲エリア　利用計画の早期策定を急げ

２０２５年の大阪国際博覧会誘致と同時にＩＲ（統合型リゾート施設）を夢洲に誘致する計画が進められている。この計画は、大阪府・市が２０２５年国際博覧会（以下 万博）と同時にＩＲを夢洲に誘致することで、関西経済の起爆剤となる万博との相乗効果が生まれることを期待している。

関西では、外国人観光客が年々増加し、観光業が好調に成長しつつある。そして、２０２５年万博が大阪で開催されることで、大勢のインバウンドが大阪・関西に訪れることが予想されている。ＩＲを同時に誘致することで外国の富裕層に滞在する期間を長くしてもらうのが狙いだ。

ＩＲ誘致によって関西圏に新たな観光資源がうまれ、「観光先進国」の目標を掲げる日本の先駆けとなる。そして、万博終了後も地域経済に貢献できる。

しかし、やみくもにＩＲ誘致を進めてはならない。過去にＩＲを誘致した韓国では、治安悪化を懸念し、韓国人の国内のＩＲへの入場を「江原（カンウォン）ランド」のみに制限して、インバウンドのみを対象に絞ったが収益は減少している。なぜなら、韓国ではＩＲにＭＩＣＥ関連施設やリゾート施設が少なかったため、ＩＲのブランド確立に失敗し、「カジノ」のイメージが強くなってしまった。それで、週末に訪れる家族層や富裕層などを獲得できなくなった。また、アクセスの悪さも原因の一つとして考えられる。

ラスベガスやシンガポールなどが安定的な収益をあげられているのは、ギャンブル依存症対策や治安悪化防止対策を整備するなど、「カジノ」を厳格に制限できているからだ。シンガポールでは自国民に日本円で一万円程度を入場する際に徴収している。また、運営のノウハウを蓄積し反社会組織の介入を防いでいる。このように、カジノが持つ「負の側面」をうまくコントロールしている。

そこで、日本ではＩＲを誘致する際に、インフラを整備しやすい大阪の広大な夢洲を候補地として検討し、ＩＲに特化させるのではなく、大阪・関西の伝統、文化、芸術を活かした地域の個性あふれるＩＲを建設しようとしている。万博とあわせて誘致することで、ＭＩＣＥやリゾートを強化させて、さらなるインバウンドの獲得に弾みをつけたいものだ。（野田晃司）

万博への挑戦

大阪府万博政策企画部
万博誘致推進室
森　栄子さん

２０２５年の国際博覧会（万博）で大阪・夢洲は開催地に立候補している。今年11月のＢＩＥ総会で万博開催の可否が決定する。誘致計画が企画された当初、担当職員は2人だけ。そのうちの1人である大阪府万博政策企画部万博誘致推進室・森栄子さんにお話しをうかがった。

◆　◆　◆

２０２５年の万博を大阪で開催する計画が出たとき、１９７０年の大阪万博の事情を知っている人は、全く居らず、右も左もわからない状態であった。「万博って、一体どんなものだろうというところから始まった。」と森さんは振り返る。万博を森さんは同じく大きな国際イベントである五輪を引き合いに出して説明した。

五輪は民間の団体が主催し、都市として各地が立候補する。一方で、万博は国家間に定められた条約に基づいて開催され、開催地への立候補は日本であれば、閣議で了解されることが必要だ。さらに五輪は平和の祭典で、一過性が強い。これに対して、万博は一国では解決できないような課題をテーマとし、国同士が知恵を出し合うイベントである。だからこそ、半年間の開催期間が終わっても後につなげていかなければならない。

森さんはこのような話を前置きしたうえで「普段できない挑戦や試みを、企業や自治体さらには個人でもすることができる。万博の本当のメインはそこにある。」という。万博は国が主催でありながら、そこには個人や民間団体の挑戦がある。

（徐　太介）